

異文化と心通わせ

つくば通信

⑯ 村田 佳子



先日、ある勉強会で講師をされていた経営者の女性がおっしゃいました。「いろんな人とランチを食べるといいよ。同じ人ばかりだと斬新なアイデアは生まれにくいから」ランチは仕事のスイッチが入っている状態でお酒も入らないから、頭がさえていた分、新たなアイデアにも出合える可能性がある、そして時間が限られているのがいいところ。

私が働くビルには直接国際協力の業務に携わる人以外にも、ビル管理の方、運転手さんなどさまざまなお方と一緒にすることがあります。アジアやアフリカの料理もあり、一般

の方も入ることができるのでも、先日は友人が訪ねてきました。「ランチはいろんな人と食べるのがいい」と「同期になることができるのは確かにうます。昼、食堂ではいろんな方と一緒にすることがあります。アジアやアフリカの料理もあり、一般

途上国から来る行政官、研究者やエンジニアの近況に触れるのは午後への活力になつています。

先日、同僚4人でお昼を食べたりとのことでした。最近よく映画を見に行くという同僚。「昔、初任給が2万円台だったころも、100円でよく映画を見ていたんです。今、私100円で見ることができます

明るい雰囲気のJICA筑波の食堂。日替わりで東南アジアやアフリカなどさまざまな国の料理がメニューに加わります

よ。確かに65歳になつたら、こんなものいふの」と思わず聞いてみたいだからあちこち行きたくて。今から楽しみで!」

「同僚」は昭和40年代、初めて海外勤務を命じられたそうです。1ヶ月360円。今のようじん軽に30歳以上だつたら「同僚」のようじんも「上司」と0円。今まで一生会えなくなつたので「一生会えなくなるでしょう。人生の大海外に行く時代ではなくんじやないか、そんな風に思った親族が羽田空港まで見送りに来たそうです。

途上国から帰国までも研修通訳、視察の移動、旅の手配などをするのがコーディネーターです。

その話とうかがうと、日本が発展したのは代の方も受験に来ます。心通わせ」というタイトな試験があり、60歳代の方も受験に来ます。心通わせ」というタイト

こんな異文化交流

こんな異文化交流

このように、JICA筑波の食堂は、日々の業務を通じて、多様な文化との交流を実現しています。

